

離島の振興を促進するための北九州市における産業の振興に関する計画

平成31年3月22日作成

北九州市

1. 計画策定の趣旨

北九州市は、昭和38（1963）年2月10日、五市（門司・小倉・若松・八幡・戸畑）対等合併により誕生しました。福岡県の最北端に位置し、日本海（響灘）と瀬戸内海（周防灘）に囲まれた九州の玄関口であり、面積は約492km²で、福岡県の約10%を占めています。市域の大部分は、東部の企救山地と中央部から南に延びる福智山地により占められ、北部は海に面して平地が広がっている地形となっています。

本市の離島である藍島・馬島の2島は、筑前諸島の東端、北九州市の北の海上に位置し、同市小倉北区に属しています。

藍島は本土から直線距離で4.2kmを隔て、周囲13.2km、面積0.68km²、南北に細長く、起伏の小さい平坦な島で、標高は24.4mです。全島古代三紀層砂岩からなっており、海岸は沈降性で岩礁帯が連続しています。集落は、南部の本村地区及び中部の大泊地区、北部の寄浦地区の3地区に分散しています。

馬島は下関市彦島と藍島のほぼ中間に位置し、本土から直線距離で2.6kmを隔て、東西1.1km、南北500m、周囲5.4km、面積0.26km²で、標高20mほどの丘陵が連なる台地状の地形となっています。海岸は岩礁、入江が多く、北側は海岸の浸食がみられます。集落は中央南部に1集落のみがあり、また、福岡県で最も小さな有人島です。

本市の人口は、平成27年国調で961,286人、うち藍島243人、馬島31人となっていますが、平成22年国調との比較では、本土で1.6%減に対して、藍島12.3%減、馬島は22.5%減であり、また、高齢化率にあっては、本土29.3%に対し、藍島33.3%、馬島は51.6%で、本土との格差が著しく、藍島、馬島にとって最も重要な問題となっています。

産業就業構造については、平成27年国調で藍島が、第1次産業96.2%、馬島が、第1次産業64.7%、第3次産業26.7%であり、両島共に、第1次産業の割合が高い状況です。

そのため、現在、藍島、馬島で獲れた新鮮で豊富な水産物の価値を高める製品のブランド化や認知度向上に向けた情報発信等を行っています。

この計画は、藍島、馬島における地域資源等を効果的に組み合わせながら、持続可能な産業活動を促進するための諸施策を定めたものです。

2. 計画の対象とする地域

本計画の対象となる地域は、離島振興法に基づく離島振興対策実施地域として指定されている藍島、馬島を対象とします。

3. 計画期間

本計画の計画期間は、平成31年4月1日から平成35年3月31日までとします。

4. 対象地区の産業の振興の基本的方針

(1) 藍島、馬島の産業の現状

ア 藍島、馬島の地域の特色

航路は、北九州市小倉北区浅野の小倉発着所と藍島との間の17.3km（航路距離）を市営渡船の「こくら丸」が1日3往復しています。

道路状況等は、藍島は島内の3集落を結ぶ市道が幹線で、この市道を中心に小道が分岐し、住宅地に続いています。市道の実延長は4.8kmで、舗装率58.3%です。馬島は1集落の島であるため、集落内を走る道路の他は島の諸所に通じる小道があるだけであり、市道の実延長は2.4kmで、舗装率30.4%です。

イ 近年の藍島、馬島の産業の動向

【水産業】

漁業は両島にとって中心的な産業であり、藍島ではマダイ、サザエ等の水揚げがあり、また、近年はアワビ、アカウニ等の種苗放流に取り組んでいます。馬島では、ワカメ、アワビ等の水揚げがあり、藍島と同様にアワビの種苗放流に取り組んでいます。両島は、大消費地である北九州市に、鮮魚の供給を行っています。

[漁家の推移]

島名	平成20年度	平成25年度	差
藍島(戸)	69	60	△9
馬島(戸)	10	10	—

(出典：漁業センサス)

【農業】

馬島は比較的平坦地の畑が多く、日当たりが良好です。風当たりの少ない農地では、“しそ”、“わけぎ”を栽培、出荷している農家があります。

[農家の数]

島名	藍島	馬島
農家数(戸)	0	5

(出典：平成27年農林業センサス)

【観光業】

来島者は良好な釣り場を目的に訪れる釣り人が主体です。

観光資源については、藍島では、藍島遠見番所旗柱台や、大潮の干潮時に北側の貝島・姫島との間に現れる「千畳敷」と呼ばれる広大な岩礁があります。馬島では、史跡などの観光資源はありませんが、磯遊び等ができる海岸線や眺めの良い丘陵等があります。

来島者を受け入れる宿泊施設である民宿は藍島に4軒ありますが、馬島にはありません。

(2) 藍島、馬島の産業振興を図る上での課題

【水産業】

島の基幹産業である水産業については、漁業就業環境など一定の成果は上がっていますが、安定的に漁業に取り組めるよう、海の環境保全と水産資源の拡大について継続して行うことが重要です。また、多くの漁業者の理解や合意形成を図りながら、本土に近接している特性を活かし、販路拡大等による収益の増加を進める必要があります。

【農業】

馬島の生産者は漁業が主であり、一部副業的に農業が営まれている。その為、農道や農業用施設等の整備が遅れており、農産物の安定的な生産が困難である。また、農産物の出荷・販売については、ブランド化等による生産量や販売の拡大が望まれる。

【観光業】

観光産業については、来訪したくなるような“島本来の魅力”を高め、その魅力を発信し、島全体で来島者を受け入れ、経済が循環するような総合的な取組を進めて行くことが重要です。

5. 産業の振興の対象とする事業が属する業種

農林水産物等販売業、旅館業

6. 事業の振興のために推進しようとする取組み・関係団体等との役割分担

(1) 取組

【水産業の振興】

島の基幹産業として、水産業の振興を図るため、水産資源の生産に重要な役割を果たす藻場の保全等に努め、漁業環境の改善を図り、将来にわたって、持続的な活用ができる里海づくりを推進します。

また、漁業生産の拡大に向けて、種苗放流の推進や水産物流通に必要な漁業関連施設を整備することにより漁業経営の安定化を図ります。

安全・安心な魚介類を市民のニーズに応じて、出荷するための体制づくりや多様な販売先の開拓等を進めます。

また、水産品の加工による付加価値を高めた商品づくりやインターネット等を活用した特産品の新たな販路開拓の支援を行います。

【農業の振興】

馬島の農業の安定化・効率化に向けて、農道等の生産基盤、農業用施設の整備を行うとともに、農地の土壌改善に取り組み、生産性の向上を図ります。

また、農産物のブランド化等により、生産量や販売ルートの拡大など、生産者と一体となった農業振興を進めます。

【新たな産業の創出】

島の雇用の確保と収入の安定化に向けて、島の資源を活かした産業を創出するため、体験漁業や新鮮な魚介類を食べることができる空間づくり等、島の基幹産業である水産業と連携した取組を推進します。

また、釣り人や「猫」を目的に訪れる外国人観光客などに、島の環境に配慮しつつ、島での滞在をもっと楽しんでいただけるよう、案内板などの環境づくりを進めるとともに、より多くの方に島の魅力を伝え、来島者の増加を図るため、観光ガイドブックやホームページ等を活用したPRを行います。

(2) 関係団体等との役割分担

【北九州市】

- ①租税特別措置の活用促進、地方税の不均一課税、課税免除
- ②立地、設備投資、雇用促進、産業育成のための取組み
- ③地域外企業誘致のための取組み
- ④産業振興（起業や事業高度化等）のための人材育成のための取組み

【福岡県】

- ①租税特別措置の活用促進
- ②設備投資・雇用促進・産業育成のための取組み
- ③地域外企業誘致のための取組み
- ④産業振興（起業や事業高度化等）のための人材育成のための取組み
- ⑤離島活性化交付金等事業計画等に基づき実施する物資の流通効率化、漁業再生、雇用拡充、通信等に係る事業等

【民間団体等】

- ①漁業協同組合：漁業者が取り組む水産物の加工や製造・販売の支援
- ②農業協同組合：農業用加工機械の導入支援等

7. 計画の目標

本計画の実施にあたっては、次の項目を成果目標に設定します。

	新規設備投資件数（件）	設備投資による新規雇用者数（人）
農林水産物等販売業	1件	1人
旅館業	1件	1人
合計	2件	2人